常磐東小学校　校長だより

常なる磐

つねなる　いわ　seasonⅡ

令和３年６月１８日(金)

◇　　を向いて歩こう

タイトルの　　に言葉を入れるなら、間髪入れず 上 と答える。同時に、木琴が奏でる前奏に続き、坂本九の軽快な歌声に乗せた「あのフレーズ」が思い浮かぶ。

ところがである。

市内のある中学校のホームページを開くと、トップページに現れたのが右の写真。校内掲示物（生徒へのメッセージ）を撮影したものだ。これだけ見ると、さすがに驚く。

安心してもらいたい。

写真は掲示物の一部を切り取ったもので、下を向いて歩こうには、続きがある。

ある中学校とは、本校赴任前に自分が勤務していた矢作北中学校。教職員の誰が作ったメッセージなのかも見当がつく。候補は二人。S 教諭もしくは O 教諭だ。

まずは安心していただくために、掲示物の全てを見ていただく。

下を向いて歩こうに続くのは、

ゴミを拾う　人が捨てた幸運を拾うことと ある。

「ゴミを拾う」ことを求めるのではなく、まずは「自分からゴミを拾おうとする気持ちをつくる」ことをねらいとしている。

「下を向いて歩け」ではなく、「下を向いて歩こう」という呼びかけ口調。ここにある意味は、「その後の行動は、生徒に任せる余地を残す」ということであろう。

さらに、「ゴミ」を【人が捨てた幸運】と価値付けて言い換える。加えて、掲示する場所は、階段中ほどの「踊り場」の壁面。しかも、どーんと大きく。階段を上るときも、下るときも自然と目に入る仕掛けだ。　総じて候補は S 教諭だ。

もう一人はＯ教諭。
Ｏ教諭と職場を共にしたのはたったの１年間であるが、自分は彼がさりげなくゴミを拾う姿を何度も、何度も見た。
職員室なら、ゴミ箱にゴミを捨てるが、ゴミ箱がない時はポケットに入れる。行動に迷いがない。

「ありがとう」と言葉をかける。すると彼は、決まって同じ言葉を返す。
「はい、趣味ですから」。実に味わいのある受け答えである。

そんなやり取りをしばらく続けているうち、別の切り口で言葉が返ってきた。
「ゴミを拾っているんじゃないんです。【徳】を拾っているんです」

私がゴミを拾うＯ教諭の姿を何度も見ているぐらいだから、ともに学校生活を送る生徒は、間違いなくＯ教諭がゴミを拾う姿を見ている。ここが大切。
続けているから、生徒は感化されるのだ。

そして彼らに共通する点がある。Ｓ教諭もＯ教諭も生徒に強要はしない。
「自ら」行わなければ本物にもならないし、長続きしない。
「心」が変わらなければ、長続きしないし、本物にならない。　からである。

このように、岡崎の教育は、「子供の心を揺さぶる教育」であり、「子供の心に訴えかける教育」を実践しているのだ。

話は変わるが、つながりのあるお気に入りの「永平寺」の話。

曹洞宗の修行寺でもある永平寺だが、参拝のほか、観光もできる。館内に入ると、修行僧の姿も見ることはできるし、修行を目の当たりにできることもある。しかし、自分の目に留まったのは修行僧ではない。年期の入った【ごみばこ】である。
【護美箱】。これで「ごみばこ」と読む。

つまり「ごみばこ」は、【美しさを護る（守る）箱】なり。

担任時代の話。旅から戻り、教室のごみ箱に表示したのが【 護身箱 】。
ゴミを拾って捨てることが、修養・修身（道徳）につながるということ。道徳を学ぶ中学生用にアレンジしたわけだ。
そんな昔のことを思い出した【 下を向いて歩こう 】であった。